

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成22年8月31日現在

今月の重点活動

えだまめ G A P 現地調査を実施（岐阜市）

J A ぎふえだまめ部会では今年度から G A P に取り組んでいる。7月30日に、部会役員、農業普及課、市、J A、全農県本部職員らで選果施設2カ所と部会員4名の作業場など現地調査を行った。

内容は、農薬や肥料の保管状況や安全性や衛生面など21カ所の点検項目。結果、作業場への動物の侵入阻止等の課題が明らかになり、今後、取組方法を役員会で検討することとなった。



G A P 現地調査

主要農作物の生産振興

ふるさとのじまん農産物づくり（アスパラガス）

産地化に向け新規生産者対象の現地研修会 各地で開催

<岐阜市>

農業普及課主催のアスパラガス現地研修会を7月29日にJ A ぎふ市橋支店で開催し、岐阜市を中心に管内から生産者9名が参加。普及指導員から直売所で販売する出荷規格や土作り、栽培管理などについて指導を行った。



岐阜市での研修会

<羽島市>

8月4日にJ A ぎふ羽島アスパラガス部会の現地研修会を開催し、新規生産者7名が参加。普及指導員から立茎後の管理、特に灌水の重要性と茎葉の整理について指導を行い、質問の多い熱心な研修となった。

羽島市での現地研修会



水稲

6月植え水稲に害虫多発 <管内全域>

8月に入り、6月植えの水稲にイネツトムシ、コブノメイガ等が多発している。食害がみられる場合は、葉色が濃く遅植えの水稲に多い傾向がある。

J A と連携して現地の被害状況の確認と防除の徹底を図っている。

<桑原土地営農組合（羽島市）>

今年から、早生品種「あきたこまち」約11.5haが営農組合で新規に取り組みられ、8月21日に猛暑の中、収穫作業が行われた。まずまずの収穫量でJ A 直売所、地元酒造会社に販売される。



あきたこまち収穫風景

大豆

順調に生育（岐阜市他）

7月下旬から大豆の播種が始まり順調に生育している。面積は岐阜市他3市で約47ha作付されている。狭畦栽培や摘芯栽培等の新技術導入も積極的に取り組んでいる。



大豆摘芯作業

いちご

各支部で生産者大会、総会、研修会を開催

いちご振興会各支部において総会、研修会等が開催され、育苗管理とほ場準備について指導を行った。

現在の育苗状況は、炭そ病の発生は平年並。花芽分化については今後の気温による影響が大きいため西日遮光などを進めている。

えだまめ 抑制栽培面積が増加（岐阜市）

今年で2年目となる後半の出荷延長を目的とした抑制栽培実証は、8名で約2haを計画している。播種は9月5日まで行われ、出荷は11月末までの予定。（慣行11/5頃迄）



研修会風景

にんじん 冬にんじん播種順調に進む（各務原市）

8月1日から冬にんじんの播種が始まり8月末まで播種された。今年は気温が高いものの定期的に降雨と灌水管理で、播種作業は順調に進み、発芽揃いは良い。今年の作付面積は、昨年と同程度が見込まれる。（約32ha）

ブロッコリー

播種作業始まる（岐阜市、本巣市、山県市）

J Aで導入した全自動播種機を利用して、8月3日～18日にかけて播種作業が行われた。J A施設や外部委託先（花き生産者）で、9月上中旬の定植まで育苗管理される。今年は夜温や湿度が高く徒長が心配されるため、灌水や温度管理など注意喚起している。



全自動播種機での作業

かき 大玉生産に向けた摘果の徹底！（管内）

今年度は春先の低温、梅雨時期の日照不足による生理落果やカメムシ、ヘタムシの被害による落果が多く、着果数は各振興会とも少ない状況である。農業普及課では、大玉生産に向け、摘果検査（併せて間伐検査）を実施し、摘果の徹底を図っている。果実の肥大状況は、8月16日時点での富有の果周は21cmで、平年と比較するとやや小さめで推移している。今後の天候に期待したい。



最終摘果検査

「農業技術の匠」の講演で技術向上！！（本巣市）

糸貫柿振興会共販推進委員会では、「農業技術の匠」の認定を受けた委員長の講演会を実施された。「私の柿づくり」と題した講演で、経験に基づいた細かな部分まで話され、参加者の関心は非常に高かった。

花き フランネルフラワー秋出荷作型の矮化試験（管内）

秋出荷作型の高温による徒長対策として矮化剤試験を実施し、高品質生産技術の確立を進めている。

8月4日には、県フランネルフラワー研究会が開催され、栽培技術の他、県内各地の生産に関する情報交換を行った。



フランネルの矮化試験

担い手の育成・確保

新規就農者 いちご新規就農者支援状況（岐阜市、本巣市）

今年度就農した6名のハウス建設工事が8月上旬に完了した。育苗は、初年度ということもあり普及指導員の濃密指導で対処している。現在9月の定植に向け準備中である。

また、今年度から研修（インキハート）開始した研修生（3期生）の就農地がほぼ決定し、農地確保を手続きを進行中。昨年の経験を活かし、早期の就農準備支援を行っている。

岐阜地域いちご生産者新人研修・担い手交流会を開催（管内）

全農県本部いちご新規就農研修施設が今年で3年目となり、新規就農者が年々増加してきている。農業普及課では、新人研修会（就農5年未満）を定期的に開催している。

8月23日に農業普及課主催の新人研修会（現地）を開催し、その後J A主催の担い手交流会を開催された。「若手が変える岐阜のいちご産地づくり」に期待したい。

地域の動き等

瑞穂市 今年度から学校給食等野菜の取り組み始まる

今年度から瑞穂市では地元野菜の学校給食利用の組織的な取り組みが始まった。市内の直売所出荷者約30名が白菜、キャベツ等6品目を栽培し12月～3月に出荷される。農業普及課では、技術指導等の支援を行っている。

岐阜地域 岐阜地域幼稚園・保育園を対象とした食農教育支援（管内）

7月下旬に幼稚園教諭・保育士研修会で、幼児体験向きの野菜栽培と食育について「土になじみ、野菜を育て、生きるために食べる」をテーマに農業普及課から講義を行った。

農業高校との連携 県内農林高校教諭現地研修会が管内で開催。普及活動をPR

農業普及課では「岐阜地域の安全・安心な農産物の取り組み」をテーマに、室内研修として課長が講演。現地研修で「枝豆と梨」のぎふクリーン農業の取り組み等対応し、岐阜地域の農業と普及活動を理解して貰う良い機会となった。